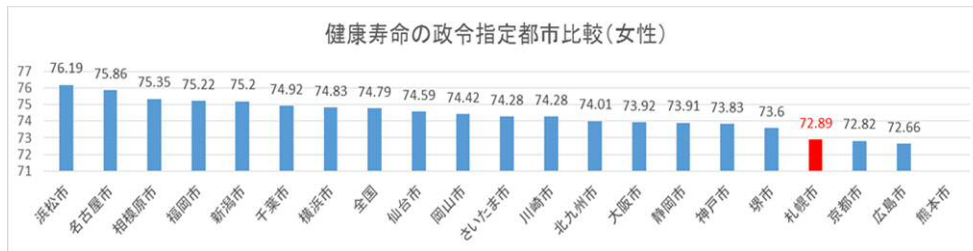
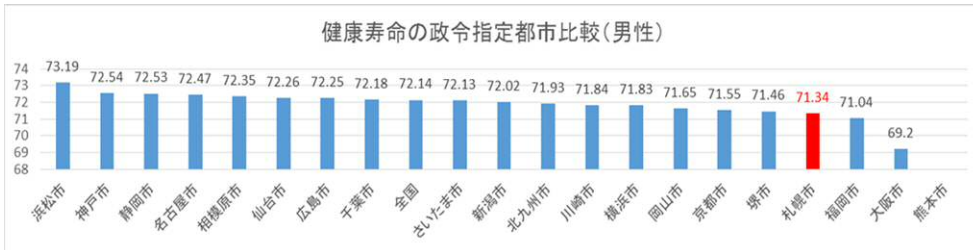


札幌市健康寿命延伸推進本部について

1 現状

- 札幌市は人口減少・少子高齢化が進み、2040年には高齢化率が約40%になると予想されており、要介護者も増加していくことが予想。
- 健康さっぽろ21（2014～2023年度）に基づき健康寿命延伸に向けた取組みを実施。
- 札幌市の健康寿命は全国平均を下回っており、政令指定都市の中でも下位に位置。
⇒全国との差：**男性－0.8歳、女性－1.9歳**
⇒浜松市（政令市の中で健康寿命1位）との差：男性－1.85歳、女性－3.3歳



※出展：厚生労働科学「健康寿命研究」2016年

2 課題

- 中間年である2018年度に健康さっぽろ21の中間評価を実施。
- 札幌の健康寿命について、計画策定時（2010年）から、男性は延伸傾向にあるものの、女性はほぼ横ばい、依然として男女ともに政令指定都市の中で下位に位置している。
- 「栄養・食生活」、「身体活動・運動」、「喫煙」で指標の達成に遅れが見られる傾向。
⇒働く世代：栄養、運動、休養、女性：運動や喫煙などに課題
- 健康寿命が短い要因の更なる分析が必要。
- 健康行動における効果の定量的な評価・行動を促す市民への効果的な発信。
⇒例えば、ウォーキングをしたらどれくらい健康になれるの？



指標 (%)	策定時	中間評価	目標	評価	
成人の喫煙率	成人	20.5	17.7	10	B
	男性	30.6	25.2	15.5	B
	女性	13.1	11.9	6.3	C

分野	指標数	評価				
		A	B	C	D	E
全基本要素の取組結果に対する総合的な成果指標	12	8	0	2	2	0
栄養・食生活	18	2	3	4	6	3
身体活動・運動	12	4	0	0	2	6
休養	3	1	0	0	2	0
飲酒	4	2	0	0	0	2
喫煙	13	3	3	1	0	6
歯・口腔の健康	6	3	0	0	2	1
健康行動	16	7	1	4	4	0
親子の健康	17	4	1	2	5	5
ソーシャルキャピタル [※] (社会とのつながり)に関する成果指標	3	0	0	0	2	1
計	104 (100.0%)	34 (32.7%)	8 (7.7%)	13 (12.5%)	25 (24.0%)	24 (23.1%)

3 札幌市健康寿命延伸推進本部 2019.6.4設置

<目的>

- 札幌市の健康寿命は男女ともに、全国平均を下回っていると同時に、政令指定都市の中でも下位に位置しており、高齢化が進展していく中で健康寿命の延伸は喫緊の課題。
- 「札幌市健康寿命延伸推進本部」を設置し、関係部局の連携強化を図るとともに、有識者からの助言をいただきながら、庁内が一丸となって健康寿命延伸に向けた取組みを推進していく。

<役割>

- ①健康寿命延伸対策に係る情報の収集及び共有。
⇒健康寿命が短い要因の分析、健康行動における効果分析結果の共有・指示等
- ②健康寿命延伸対策に係る施策の企画、調整及び推進。
⇒各区、事業部局が実施する健康長寿延伸に向けた取組みの推進状況の報告・指示等
- ③その他、健康寿命延伸対策に必要なと認められる事項。

<本部構成員>

- 本部長：町田副市長（保健福祉局担当副市長）
- 副本部長：まちづくり政策局長、医務監
- 本部員：総務局長、財政局長、市民文化局長、スポーツ局長、保健福祉局長、高齢福祉担当局長、子ども未来局長、経済観光局長、北区長、教育長
- 顧問：筑波大学大学院 久野 譜也 教授

推進本部の下に幹事会を設置し具体的な取組みを推進